

5 今年度の重点課題（学校アクションプラン）

令和5年度 南砺平高等学校アクションプラン - 1 -

重点項目	学習活動	
重点課題	学習に取り組む態度の育成および教師の指導力、ICT活用スキルの向上	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭や寮での学習量や内容が不十分で、十分な態勢で授業や考査に臨めていない生徒がいる。 ・基礎学力が不足しているため、教科内容の習得に時間がかかる生徒がいる。 ・進路に対する目標が明確でなく、課題への取り組みが不十分な生徒がいる。 ・教員間で、ICTの活用における意識やスキルに個人差がある。 	
達成目標	①学習時間の確保 ・生徒の1週間あたり、授業以外の学習時間	②ICTを活用した授業の満足度の向上 ・ICTの活用満足度を3点満点で評価 (各学期末に取り組み状況を調査)
	・各学年平均600分以上	・各学年2.5点以上(3点満点)
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が取り組みやすい課題内容や生徒個々に合わせた課題レベルを検討し、朝学習をはじめ授業以外の時間にも学習する習慣を身につけさせる。 ・詳細な学習・生活実態調査を実施し、生活指導を合わせたきめ細やかな面接指導、助言を行う。 ・進路調査、成績結果と実態調査結果を分析し、進路意識を高める面接により、意識付けを図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修等を通じて、ICT機器の特性を理解し効果的な利用に繋げるとともに、オンライン授業にも備える。 ・年2回の互見授業期間以外にも、積極的にICTを活用した授業を公開し、教員相互の資質向上を図る。

令和5年度 南砺平高等学校アクションプラン - 2 -

重点項目	学校生活	
重点課題	安全な学校生活と心身の健康について	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・自転車や徒歩による登下校時の交通ルールに対して、安易な行動が時々見受けられる。 ・周囲には商店や高校生が利用できる施設等も少なく、スマホや携帯といった通信機器に依存し、トラブル等に巻き込まれやすい環境にある。 ・生徒数が少ないことにより、人間関係が深いものとなりやすく、ささいなことから人間関係のトラブルやいじめにつながりやすい。 ・精神的に弱い生徒、悩みを抱える生徒が増加傾向にある。 ・自主的な健康管理ができず、睡眠不足による体調不良を訴える生徒が増えている。また、食に対する正しい知識が乏しく、不適切なダイエットに頼る傾向がある。 	
達成目標	①悩みを相談しやすい学校づくり ・全員面談の回数	②バランスの良い朝食をとる意識の向上 ・長期休業期間中の朝食内容について調査し、「バランスの良い朝食をとった」と回答する生徒の割合
	・年5回以上	・50%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃から生徒に声がけをし、悩みを相談しやすい雰囲気づくりに努める。 ・定期的に面談をする計画を立てる。 ・何かあった場合の対応策について周知を図り、迅速に対応できる体制を整えておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・HR等を利用して、バランスの良い食事とはどのようなものかを考えさせる。 ・生徒各自が、長期休業期間中の朝食内容の記録をつけ、自己評価をする。 ・保健だより、給食だより、生徒厚生委員会の活動を通して、情報提供をする。 ・保健室での保健指導や、生徒寮での舎監による指導を行う。

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

重点項目	進路支援	
重点課題	進路意識の高揚および生徒個々の希望進路に応じた学力の育成	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・進路先が大学から就職まで多様で、学力差も大きく、十分な対応ができていない所もある。 ・進路に関する生徒と保護者との認識のずれ等の要因により、進路先決定までに時間がかかり過ぎている。 ・外部模試は、令和元年度より希望制とした。また、令和元年度から1・2年生に導入した「高校生のための学びの基礎診断」を基礎力診断テストから、1学期にスタディサポート、3学期に実力診断テストに変更し、生徒の基礎学力の判断指標とし、教科指導に生かしている。 ・検定試験の受験を推奨し、令和5年度から生徒の自主的な学習を勧めるため、全ての検定試験の受験を希望制とした。各年度内で必ず検定を1つ受験することを勧める。漢字検定、英語検定、数学検定、世界遺産検定、ビジネス系の検定受験を推奨する。主体的に学習に取り組むことで、基礎学力の充実を図ることを目標としている。 	
達成目標	①一人一人に対応した進路指導の充実 ・保護者同意の進路希望先決定率	②基礎学力の充実 ・高校入学から卒業までに、各種検定1種目以上取得した生徒の割合
	<ul style="list-style-type: none"> ・3学年 90%以上(7月末) 進学希望者は第1受験希望校を決定する。就職希望者は入社希望企業業種を決定する。 ・2学年 80%以上(12月末) 進学希望者は進学希望校種・学部・学科・コース等を決定する。就職希望者は就職の意思決定をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生 40% ・2年生 60%(1年次の取得割合は35.7%) ・3年生 80%(2年次までの取得割合は79.1%)
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・進路ガイダンス、卒業生と語る、オープンキャンパスやインターンシップなどを通して、進路意識の向上を図る。 ・希望進路先に対する基礎学力の状況を家庭学習時間調査結果や外部模試・検定を通して把握する。 ・進路希望調査(4月・7月・12月)をもとにした進路に関する個人面談を実施し、保護者会を通して、生徒と保護者が共に納得できる進路希望先を決定できるようにする。 	

重点項目	特別活動	
重点課題	特別活動の充実および読書習慣の定着	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会中心に、生徒主体の学校づくりを目指しており、生徒会行事ではそれが達成されているが、校則等の規律という面では教員に頼る部分が多い。 ・放課後、部活動のない時間帯に学習せず、スマホをさわっている生徒が見受けられる。 ・小中高合同運動会、球技大会、文化発表会など、生徒が積極的に取り組んできた行事は多いが、コロナ禍で行事が中止もしくは縮小・制限され、モチベーションが低下気味である。 ・年間で一冊も本を読まない生徒が4割を超えており、生徒の読書離れが懸念されている。 ・図書館の蔵書冊数が他校に比べて少なく、十分とは言えない状況である。 	
達成目標	①学校行事や生徒会行事での満足度 (5:満足、4:やや満足、3:どちらともいえない、2:あまり満足できなかった、1:満足できなかった)	②読書習慣の確立 ・生徒が良書に触れることを目的とする。各自が年間読書の目標冊数(最低5冊)を設定する。
	・すべての行事で、4以上の生徒が75%以上	・各自の達成度の平均が80%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の自主性を大切にした運営、事前の準備を大切にする。 ・多くの生徒が準備に参加できるように計画を立てる。 ・リーダー研修会等を通して、リーダーとしての心構えや積極性を育てる。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・朝読書週間を毎学期実施し、生徒全員が読書に取り組める機会を設ける。 ・「図書室だより」の発行や「購入図書調査」を通して委員会活動を活性化し、読書への関心を高める。 ・図書室と学級文庫の蔵書を充実させる。 ・生徒が興味を持ち、手に取りやすいように、図書室内外の図書の配置を工夫する。 ・生活実態調査に冊数を記入し、読書量を意識させる。 	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

重点項目	その他(地域・家庭との連携、生徒寮生活)	
重点課題	教育活動への理解を深める情報発信の強化	生徒寮における生活と学習の質の向上
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・各種「たより」は定期的に発行されており、「学校だより」は7月、12月、3月に平・上平地域全戸に配布し、広報活動を行っている。また、本校のHPにも掲載している。 ・本校の様子を本校HPに適宜掲載しているが、内容に対する保護者の満足度を高めたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒寮で生活する生徒が年々多様化し、そのためひとり一人の学習能力や生活能力の差が激しい。このことから、今年度も昨年度に引き続き、個人に合わせた目標を学期ごとに掲げて努力させたい。昨年度のこの取り組みは、寮生活で自分自身を振り返る良い機会となり、寮全体の良い刺激となった。そのため、今年度の2、3年生は昨年度以上の高い目標を設定し、寮生活の活性化をはかっていく必要がある。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ①HPの内容に対する保護者の評価 ・5項目(デザイン、内容、投稿スピード、操作性、情報量)を5点満点合計25点で評価(1・2学期末保護者会時に調査) 	<ul style="list-style-type: none"> ②寮生活の目標と学習時間の目標の達成率 ・一人一人が寮生活の目標と学習時間の目標を学期ごとに掲げ、「達成できた・だいたいできた」と回答する生徒の割合(毎月のアンケート調査)
	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の点数の平均20点以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの目標達成率75%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・本校のHPに学校行事等の記事をその都度掲載し発信する。 ・更新状況を保護者に安全メールで知らせる。 ・1・2学期末保護者会で、HPに掲載した内容について評価してもらう。 ・生徒、保護者にとって必要なデータを残すよう、古いものについては整理する。 ・各種「たより」の発行も従来通り行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特に2、3年生は頑張れば達成できる範囲にハードルを上げ、現状の生活と学習の質を上げる目標を一人一人に設定させ、振り返りにより自信を持たせる。 ・それぞれが設定した目標の内容は他の寮生に開示しないが、毎月の目標の達成度を寮内に掲示し、互いに刺激し合うことで自分で立てた目標を常に意識させる。 ・職員には舎監時に寮生全員分の調査用紙を見てもらい、日頃の指導に役立ててもらおう。

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)